

結神安八郡  
鎮座なり ○中略

稻葉山厚見郡岐阜山なり、古今集在原行平の歌に立わかれいな葉の山の峯に生る松としきかば今歸りこん、此歌八雲御抄、範兼抄、名所和歌集に美濃と有、清輔抄因州と有、文德天皇實錄云、齊衡二年正月、從四位下在原朝臣行平爲因幡守云々、頓阿の井蛙抄云、因幡國司任の時にや詠じけん、おばつかなし、二條家傳云、因州云々季吟拾穗抄に曰、兩説なれども因州然るべし、此歌を本歌にして、後代美濃國稻葉山を讀る例多し云々、○中略

伊津貫川席田あゆ田郡 ○中略

席田卿名なり、むかし此邊定家  
の知行所のよし ○中略

船木山席田上郡なり ○中略

宇留間ふ、賣間市各務郡鵜沼ともあり

岩田小町岩田郡各務小野村なり、今は野なく薄有、芥見村の近所より、山城國

日高杣○中略

不詳

其地不詳

月吉里土岐郡細久手の南也、此里より  
三日月影の白石出る ○中略

尾總橋方縣郡雄總橋村の南長良川

母山武儀郡大矢田村の山也

神道百首ト部兼邦の歌に、美濃國喪山とあり、後に母山と書けるか、○中略

寢覺里池田郡片山村八幡村を寝覺郷又寝覺庄と云、片山爲は春早く轉る也、寝覺の云々、小島のすきみに寝覺里此あたりと云也、○中略

往來松厚見郡加納松平丹後守光永加納の城にありし時、ゆきと名づけられ、同舟波守光熙

寶永頃山城國淀城に移られし時、陪臣の人の歌に、

あけくれにながめしまつをぶるさとの人の往来の便りにぞきく ○中略